

# 21PO-am433

## 日本と海外の薬学生における学習に対する意識調査

○山川 碧<sup>1</sup>, 酒井 未咲<sup>1</sup>, 竹林 那津美<sup>1</sup>, 黒木 春那<sup>1</sup>, 米井 恒太<sup>1</sup> (<sup>1</sup>日本薬学生連盟)

### 【目的】

海外の学生に比べて日本の学生は学習意欲が低いことが問題とされることがある。しかし、学習意欲やそれに影響を与える因子について調査した報告はみられない。本研究では、日本と海外の薬学生を対象とした調査を行い、学習意欲向上に有用な情報を探索することを目的とした。

### 【方法】

2018年8月に行われたアジア太平洋地域の国際学生会議参加者に対してアンケート調査を行った。学習意欲質問項目として5項目(4段階評価)を設定して平均値を算出し、日本の学生と海外の学生の学習意欲を比較した。また、学習意欲に影響しうる項目として11項目を集計した。

### 【結果】

日本人61人と外国人298人(計359人)から回答が得られた。学習意欲を平均値として算出した結果、日本人学生が2.8459、海外の学生が2.8583で有意な差は見られなかった( $p=0.8410$ )。また、日本の学生も海外の学生も将来の職業選択、授業カリキュラム、インターンシップなどの項目と学習意欲の間に関連はほとんどみられなかった。

### 【考察】

本研究の結果からは日本の学生と海外の学生との間に学習意欲の差があるとは言えない。学習意欲に影響を与える因子として、将来の職業選択などを検討したが、明らかな関連は見られなかった。今後、学習の目的意識についてさらなる調査を行う必要がある。